

## 税を考える

稚内市立稚内南中学校 三年 丸山 古都子

私は、税について多くのことを知らない。物を買ったときは消費税十パーセントを意識するが、それ以外の税はわからないことが多い。社会の授業で税について触れていたことを思い出し、改めて税について調べてみた。

江戸時代までは、お米で税を納めていた。他にも租庸調といって米以外にも布や特産品で納めたり、労働を提供する方法で納めたりしていた。明治時代に租税改正が行われ、お金で税を納めるようになった。税の歴史は今から千三百年も前の飛鳥時代から始まっているのに、現在のようにお金で納税するようになったのは、ほんの百五十年ほど前なのだ。お金での納税以前は、気候変動などで作物の収穫にムラがあったり、徴収が厳しい時代は反乱や暴動、夜逃げすることもあったりし、安定的な徴収が難しい時代もあった。お金で納税するようになってからは、政府の財源は安定するようになったそうだ。税が米や布、特産品などで納められていた時代は、それらを納税場所まで運ぶ手間は大変だったと想像する。また現金のみの取り扱いの時代も間違いなく現金を用意しなければならず負担が大きかったのではないかと思う。

私たちは、納税する立場から税について思いを巡らせるが、ふと徴収する側の立場で考えると、納税と同じくらい大きな負担があったのではないかと思う。米や布、特産物での納税では正しく計測する作業があるし、保管する場所を確保しなければならない。現金の場合でも金額は一円たりとも間違えられなく、相当神経を使う作業だと想像する。

我が家は事業を営んでいるので、毎年確定申告を行っている。日々帳簿を付けているし、月末には会計事務所の方と打ち合わせをしている。毎年確定申告の時期は、領収書や関連資料の整理などてんやわんやだ。納税する側がこんな調子なのに、徴収する側は時期が重なることがあり、もっと大変だろうと想像する。

ここ数年は、イータックスといつてインターネットで申告することができ、納税もマイナンバーカードを利用してパソコン上で完結できるようだ。税の納め方や徴収の仕方はどんどん便利になって進化しているみたいだ。

実は、昨年度の申告の際、両親は数字の入力ミスをしていたようで、本来より多く税を納めることになっていた。税務署の職員が気づき連絡してくれたそう。その際に修正方法も丁寧に教えてくれ大変感謝していた。税務署の職員はしっかりと申告書を確認しているのだと改めて感じたそうだ。

税について考えるとき、納税について強く意識するが、徴収する側への意識は低い。

給与所得者は源泉徴収制度や年末調整制度など職場で完結することが多く、税への関心や税務署とのかかわりは低いらしい。私は税についてもっと関心を持ちたい。そして更にその使われ方にも意識を広げていきたいと思った。